allcinema

智恵子抄（1957）

メディア 映画
ジャンル 文芸　ドラマ　ロマンス
製作国　日本
色彩　B&W
時間　98分
初公開日 1957/06/29

【解説】
　高村光太郎の同名詩集をもとに、八住利雄が脚本を執筆、熊谷久虎がメガホンをとった。『智恵子抄』は本作以降、何度も映画化やテレビドラマ化された。高村光太郎の死後わずか一年で映画化され、話題を呼んだ。山村聡が高村光太郎、原節子が智恵子を演じた。
　詩人で彫刻家の高村光太郎は、画学生の長沼智恵子と結婚。結婚により荒んだ生活から脱した光太郎は、詩を創作し続けた。智恵子は自分の絵の才能に限界を感じ、精神的なダメージを受けていた。さらに父の死、実家の破産と一家の離散など不幸が続き、ついに総合失調症を発症してしまう。智恵子の病気には自分にも責任があると感じた光太郎は、献身的に看護を続けたが、その間にも智恵子の容態は悪化していくのだった。

【クレジット】
監督　熊谷久虎
製作　田中友幸
原作　高村光太郎
脚本　八住利雄
撮影　小原譲治
美術　清水喜代志
音楽　團伊玖磨
出演　原節子
　　山村聡　　So Yamamura
　　青山京子
　　太刀川洋一
　　三津田健
　　三好栄子
　　津山路子
　　左卜全
　　森啓子
　　柳永二郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.